

管轄地域の特徴をふまえ、施設・設備の充実を

上越地域消防事務組合議会が初めて管内視察

上越地域消防事務組合議会議員が15日、管内視察を行いました。今回の視察では、東頸消防署と頸北消防署を訪問、それぞれの消防署での取り組みの説明を受けた後、施設や消防・救急活動にかかわる機器などを見せてもらいました。小池消防長の話では、消防事務組合議員の管内視察は今回が初めてだといいます。

東頸消防署は大島区、安塚区、浦川原区を管轄しています。職員数は26人。同管内は中山間地であり、豪雪地帯でもあります。

重点的に取り組んでいるのは、住宅用火災警報器の設置促進、林野火災警防対策、消火活動困難集落警防対策の3つ。後の2つについてはマニュアルが用意されていることを初めて知りました。具体的な対象地域や集落も決まっています。地図でよくわかるようにしてあります。特に、高齢化が進んで消火活動が困難な集落については、個々の住宅と消防水利の関係も図面上に書いてありました。

東頸消防署庁舎は平成19年度に新築されたばかり。出動準備室、仮眠室、家用発電設備などは最新のものとなっていました。例えば仮眠室。プライバシーや感染防止対策を考慮して個室型となっています。家用発電設備があるのは本部とこの署だけで、他は移動式発電機だということでした。この点は改善が必要です。

頸北消防署は柿崎区、大潟区、吉川区を管轄しています。ここも26人体制。管内には海がありません。米山・尾神岳という山もあります。石油タンク群もある。さらに、高速道が走っています。火災、救急、救助等の活動に必要な機器が備えてありました。同署では、高規格救急車の内部も見せてもらいました。

この庁舎は昭和56年2月の竣工です。すでに30年近く経っていることになりました。この部屋もかなり古く、東頸消防署との差は歴然としていました。ただし、耐震強化工事は終わっていますので、地震対策は大丈夫です。



16日、17日と市議会主催の議会報告会でした。滝澤議長になってから初めてです。議員以外の参加者は合計で50人ほどでした。

今回の報告会では参加者から要望、注文が相次ぎました。

「決算議会の進め方は工夫を。これからの行政運営では、新たな行政需要が出てきた場合、既存の事業を削って進んでいくことになると思う。審査では、認定するかしないかの質疑だけでなく、事業を継続するかどうかなど委員会として、議会としての意見を出していくことが求められる」「合併10年計画の折り返し地点なのに、質問が少ない。これからの5年間でどうすべきか議論すべきだ」「新幹線・並行在来線問題のしっかりした情報をつかみ、早く対応してほしい」「パブコメの結果、中身をしっかりとチェックを」などです。しっかりと受け止めて議会に臨みたいと思います。

今回の視察結果を踏まえ、消防組合議会では、施設・設備等の充実をめざし頑張ります。



橋長は約20メートル。竣工は1976年（昭和51年）12月です。

シリーズ 上越市内の橋 第53回 新田橋
「新田橋」と書いて「しんでんばし」と読みます。大出口川にかかった橋で、吉川区と柿崎区をつなぎます。
橋は別れの場となることがあります。1945年（昭和20年）1月11日のことでした。海軍飛行兵となることになった江村武雄さん（当時17歳）は家族、親戚、近所の人たちとともに、自分の集落から大雪の中を歩き、この橋のたもとで別れの挨拶をしました。柿崎に向かって歩き始めた時、後ろの方から「元気で帰ってこいよ」と声をかけたのはお母さんです。江村少年は振り返ることができませんでした。

まさかハウスの中でモーツアルトの曲が流されているとは思いませんでした。先日の夕方六時半、私はパプリカが栽培されているハウスの中に入れてもらいました。あたりはすっかり暗くなっています。背丈が二メートルを超えたパプリカの茎は太く、天井へと伸びる姿は『ジャックと豆の木』に出てくる豆のようでした。

入ってまもなくのこと、クラシック音楽が聞こえてきました。最初は小さく、静かに流れていました。「どうぞ、こちらへ」案内役の青年に従って進むと、音は急速に大きくなりました。曲のテンポは速くなり、音もそれに伴って大きく聞こえてきます。曲はハウス内の中心部から流れていました。

スピーカーはハウスの中央部のかなり上の位置にありました。南方方向を向いていません。これではスピーカーの北側はよく聞こえない可能性があるなと思いました。当然、パプリカへの影響力も違うはずですが。「あっち側とこっち側でパプリカの反応が違うなんてことはあるんですか」とたずねると、「うーん、むしろ、それはわかりません」青年は笑いながら答えてくれました。

この青年によると、最初はバツハ、ベートーベン、モーツアルトなどのいろいろな曲を流していたといいます。その後、「ハウス内でパプリカに聴かせるには何々がいい」ということを栽培部長がどこかで聞いてきたらしい。青年は、「ここ六か月ほどずっとこの曲です。朝晩流しています」と教えてくれました。

流れている曲に聴き覚えがありました。ハウスを出てから事務室でCDを見せてもらったところ、モーツアルトの交響曲第四〇番でした。やはりそうだったのか。この曲なら何十回も聴いています。たまたまこの日は、雨の音が混じっていたこともあって曲を楽しみには無理がありました。でも、朝起きたらハウスから交響曲第四〇番が聞こえてくるなんて素敵でしょうね。この曲が流れてくると、私は曲に合わせて体を揺さぶりたくなります。暗闇の中でパプリカの葉が揺れていました。ひよつとしたら、パプリカたちも全身を揺らして曲を受け止めているのかも知れません。

これまでの研究によると、音楽による空気の振動で植物の成長が促進される可能性があり、空気の共振現象によって植物が吸い上げる水の量が増えるらしいということがわかっています。「水の量が増えれば、光合成のための材料が増えるので生長が促進される。糖度が上がり、実の甘味も増すと考えられる」という報告もあります。今後、研究が進めば、植物の生長と音楽の関係はもっと詳しく解明されるでしょう。

このハウスで栽培しているパプリカは赤と黄色です。いずれも色が完全にのっぺらら収穫しています。どういう味なのか、家族みんなで生のまま食べてみました。「わー、甘い」「ジュシーだね」という声が出ました。外国産パプリカの場合、鮮度も甘味もいまひとつです。六割ほど色がついたところで収穫し、日本に送り込むからだそうです。今回、外国産パプリカとの違いをはっきりと意識しました。

私が知る限り、市内で野菜に音楽を聞かせているのはこのハウスだけです。パプリカ栽培に取り組んでいる青年たちと事務所内で話をしたとき、栽培部長のKさんが言いました。「私は朝、ハウスの中に入る時に、パプリカたちに『おはよう』って声をかけています」と。優れた農業者は音楽的なセンスとやさしさをもっている、ということを知ることがあります。この青年たちがどんな農業をやってくれるのか楽しみです。

カマキリ博士の予測、今冬は大雪

3市議会の合同研修会が11日、妙高市の勤労者研修センターで行われました。カマキリ博士として有名な酒井與喜夫さんが「自然災害に備えた未来観測」というテーマで1時間半にわたって講演されました。



まず、カマキリの一生についての話。「5月の連休明けの頃から梅雨入り前までに孵化します。それも雨風なく、穏やかな日を察知して孵化が始まります」

「梅雨明け頃に成虫になり、その後は恋の季節です。見合い時間は2時間、恋の時間も2時間、用が終わればただのエサとなります。私の家も同じようなものです」といった名調子に引き込まれました。

これまで私が知っていたことは、カマキリの巣の位置が高いと大雪、低いと小雪というくらいでした。しかし、きょうの講演はそんなレベルではありませんでした。樹木に伝わる地中の微弱な震動をうけて卵のうの高さが決まってくる、それも大雨や地滑り、地震の発生とかかわりがあるというのです。地殻の変化に木

は鋭く反応する。中越地震の時は、信濃川沿いのカマキリの卵のうは通常の5~10倍の高さになっていた。こういった話を興味深く聴きました。

で、今年の冬はどうなるか。寒気は例年よりも10日ほど早くやってきて、12月は初旬から荒れる日が多くなりそうといます。根雪は半月ほど早くなり、全般的に大雪傾向だとのことでした。上越地域で予想される今冬の最深積雪は、上越市役所が119センチ、大島区上達で327センチ、柿崎区総合事務所92センチ、吉川総合事務所143~154センチでした。気になるのは雪よりも地震です。酒井さんの話では中越を中心にカマキリの産卵する高さが乱高下しているというのです。

学校給食野菜生産農家の悩み聴く

上越市議会の食料農業農村議員連盟生産部会は12日、管内視察を行いました。

視察の目的の1つは、学校給食用野菜を生産している人の声を聴くことでした。「ネギ数本でも注文があれば学校へ持っていく」「統一献立がネック」「作ってもらうには気の毒なほど安い価格だ」などの声が寄せられました。

